

五台小学校 特別支援教育便り

五台小学校特別支援教育研究部 H26・2・17

「いま なぜ特別支援教育なのか」

『特別な教育的ニーズのある子どもたちへの具体的な対応⑦』

新しい年を迎え、子どもたちも新年の抱負を胸に学校生活をスタートすることと思います。小学校生活を修了する6年生も、大きな期待と輝かしい希望を胸に、今まさに飛び立とうとしているところです。五台小学校での最終学期を有意義に過ごすことができるよう、困り感に対し効果的な支援をし送り出したいと考えています。

先号では書字についての支援について取り上げました。LD（学習障害）傾向の中でも、特に計算につまずきのある場合は次のような学習困難が予想されます。そこで今回は、いくつかの事例を挙げ、LD 傾向児への正しい理解と学級でできる支援方法を取り上げてみたいと思います。

算数・計算が苦手な子への支援方法



● 考えられる特性



● 支援方法・対応

(1) 繰り上がり・下がりのある筆算が苦手

- ・短期記憶が弱く、計算途中の繰り上がった数や繰り下がった数を覚えていることが苦手。
- ・視覚認知が弱いので、桁をそろえて書くことが難しい。
- ・数を書く位置がわからない等。



- ・大きめのマス目や枠のあるノートを使うことで、問題を写したり、計算したりする時の位取りを分かりやすくする。
- ・繰り上がった数、繰り下がった数を書く場所をきめて、必ずそこに書くように独自の計算方法を習慣付ける。
- ・1枚のプリントの計算問題を少なくして意欲的に取り組めるようにする。
- ・タイルやおはじき、図カードなどを使って、頭の中で数や計算の手順がイメージできるようにしていく。

(2) かけ算九九が覚えられない

- ・暗記することが苦手。
- ・覚えることに意欲を示さない。（面倒くさがる）
- ・今までの経験から、算数と聞いただけでいやがる。（苦手意識をもっている）



- ・耳で聞いて覚えることが得意な子と、書いて覚える方が得意な子がいます。「〇〇九九の歌」のような、興味のあるキャラクターとかの九九の歌を歌ったり、答えをはめ込んでいくパズルを使ったりと、楽しく九九に取り組めるような場面を作る。
- ・どうしても苦手な子には、九九表を手元において問題に取り組むなど、できないことを取り上げるのではなく、できることを増やしていくことで、いつの間にか覚えられることもあります。

(3) 文章題が苦手でなかなか取り組めない

- ・文章を読むことに困難さがある。（文字からの理解が難しい）
- ・問われている内容が分からないので、何算を使ったらよいのか分からない。



- ・親や先生、友だちが、問題を声に出して読んで聞かせる。
- ・「目で読むこと」が弱い子は、聞くことで問題の理解ができる場合が多い。
- ・具体物や図で見て問題の内容が分かるように示す。
- ・たし算ことは「増えると、合わせる、もらうと等」、引き算ことは「あげると、帰ると、減ると等」、かけ算ことは「いくつ分」等、問題文のキーワードを探す習慣をつけさせる。

支援のポイント



一人一人の特性を正しく理解し生かすためにするために
 今月のテーマの中での用語の説明をしておきます。
 ◎短期記憶（短期間保持される記憶で、数秒から20秒くらい保持できる記憶）
 ◎視覚認知（視覚からの情報としての風景の中から必要とされる形（情報）を取り出す働き）
 今回のテーマの中で、心当たりや心配なことがありましたら、特別支援学級担当者や特別支援教育コーディネーターに相談して下さい。耳から聞いた方が分かりやすいのか（聴覚優位）、文字や図など目からの情報の方が分かりやすいのか（視覚優位）を調べる検査（WISC-III）もあります。子どもの特性を正しく把握することはとても大切です。そのことが効果的な支援につながるからです。



五台小学校 特別支援教育便り

五台小学校特別支援教育研究部 H25・7・5



「通常学級での特別支援教育」

『特別な教育的ニーズのある子どもたちへの支援③』

通常学級での学習面での配慮事項 2

学校生活では1学期のまとめをする時期を迎えますが、期待する教育効果が望めない子どもたちがいます。ケース会議や特別支援の話し合いでは、各学級で取り組んでみた対応で効果の見られたものを発表して頂き、同じ悩みを抱えている先生方にはとても参考になっていることと思います。給湯室や立ち話の中でも先生方から対応に苦慮する子どもたちについてのお話を伺う機会が増えているように感じます。そこで、今回も先生方が苦慮している子や気になる行動への具体的な対応について取り上げてみました。学級での対応の参考にして頂ければと思います。



① 授業中に大声をだして困る子は、どう指導したらよいのですか？



● ADHD傾向のAさんは、「落ち着きがない。」「自分のものが整理できない。」といった行動が見られます。現在のところクラス全体に迷惑をかけることは少ないので、これらの点で困ってはいません。今困っていることは、授業中にわざと大声を出すことです。本人にとっては悪ふざけの延長だと思えます。威嚇的に声を張り上げることもあり、周囲の子もいい加減にしてという感じになっています。

- **小さな声でささやく**
 - その子に対して、「授業中は大きな声を出してはいけません。」と、注意してもあまり効果はないでしょう。それよりも耳元で「小さな声で発言しましょうね。」と言った方が、効果があります。先生は**感情的にならず穏やかな声で、小さくささやくことが大切なポイント**です。
 - 目線やジェスチャーで静かにするように促す。
 - そばに行って「小さな声でね。」とささやく。
- 空白の時間ができるとどうしても大きな声を出すようになるので、先生が相手をし満足させてやることも効果的である。忙しいとは思いますが、継続した対応で徐々に収まることでしょう。

② 授業中の手遊びが止められない子への対応はどうしたらよいですか？

授業中、ゲーム要素のある場合は乗ってきます。

ノートを写す作業や教科書の音読などはしません。

手遊びをし学習に取り組みません。

- ボールペンを分解する
- 消しゴムをちぎる
- 三角定規とペンで飛行機を作って一人遊びをする

取り上げるととなりの子にちょっかいをだす。

止めると、ふてくされて寝てしまう。



他人に迷惑をかけない行為は認める
(自分のためにはならないが、迷惑にならないようにしている。)

まずは、「がんばっていること」をほめます。

その後、その子の取り組みそうな課題を提示する。

これは、他人に迷惑をかけないような、環境適応方法です。

一概に止めると攻撃的になり反社会的行動が増えることが予想されます。

授業前に声をかけ、準備ができたならほめる。こちら側からほめられるように仕組む。

具体的な行動をほめる。{ノートを開いてる、着席してる} 黙認するが無視はしない。注意は短くあたたかく。



- どの子にも当てはまるものではありませんが、基本は同じです。
- 一人一人皆違い、同じ子はいません。大切なことは、個々の実態、特性をしっかりと把握することです。
- 好きなものや嫌いなものをいくつか言えますか？相手をよく知る、興味を持つことが大切！

